

愛

2025.4
春号
vol.94

特集

チームで専門性を発揮!
～ 安心のリハビリ体制 ～



Model : 左から大森さん(言語聴覚士)・山本さん(作業療法士)
井上さん・井川さん(理学療法士)
理学療法士・作業療法士・言語聴覚士などの専門職が、
患者さん一人ひとりの状態に合わせたリハビリを提供しています。

Photographer : Yudai Ogino

キラリ☆元気さん

訪問看護リハビリステーションたんぽぽ
柳本 育実

そこが知りたい

なかまちーず地域住民との意見交換会

知っ得情報

ACP 大切な人と考える、これからの生き方

- 経営理念
- 一、安心して、生命をゆだねられる病院
 - 一、快適な、人間味のある温かい医療と療養環境を備えた病院
 - 一、他の医療機関・福祉施設と共に良い医療を支える病院
 - 一、職員ひとりひとりが幸せで、やりがいのある病院

ライフサプリ

誤えん防止のポイント

きょうとう連携のわ

鈴木内科医院

キョクトウニュース

クラウドファンディングのご支援で
MRIを更新しました

「サイバー攻撃」への対応訓練を実施

特集

「チームで 専門性を発揮！ ～安心のリハビリ体制～」

リハビリは、患者さんができる限り自立した生活を送るために欠かせない大切な治療の一つです。

当院では、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士をはじめとする専門職が、一人ひとりの状態に応じた質の高いリハビリを提供できる体制を整えています。理学療法士は「座る・立つ・歩く」機能を改善して、生活能力の向上をサポートします。作業療法士は「食事・入浴」などの動作を改善して、職場復帰や自動車運転再開など、自立実現をサポートします。言語聴覚士は「食べる・飲み込む」機能を改善して、誤嚥リスク低減と食に対する楽しみの実感をサポートします。



- ① 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が専門性を発揮します
- ② リハサク
ご自身のスマートフォンから、いつでもどこでもリハビリメニューの確認ができます
- ③ 運転外来(教習所の実車評価)
作業療法士が、同乗して運転能力の確認をおこないます

専門資格を持つスタッフが多数在籍

さまざまな専門資格を持つリハビリスタッフが専門知識を活かして、リハビリを提供しています。

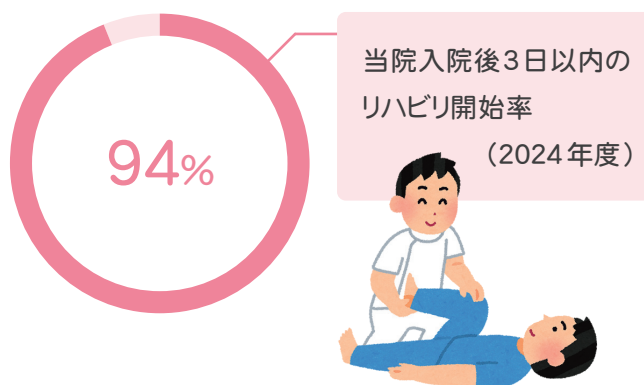
理学療法士	認定理学療法士 脳卒中/神経筋疾患/運動器/ 介護予防/管理・運営
作業療法士	認定作業療法士
言語聴覚士	日本摂食嚥下リハビリテーション 学会認定士

その他にも、呼吸療法認定士、介護支援専門員、糖尿病指導士など職種の垣根を超えた幅広い知識と経験を持つスタッフがいます。

入院 365日の早期リハビリ体制

入院中のリハビリは、早期の開始が大切です。当院では、医師と連携して、高度治療室から一般病床まで、できるだけ早くリハビリを始めることで、日常生活への復帰をスムーズに進めています。

また、365日体制でリハビリを実施しており、いつでも手厚いサポートを提供しています。

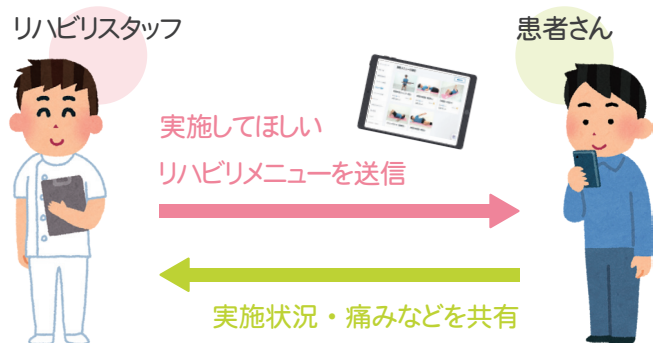


外来 退院後もサポート「リハサク」

スマートフォンを見ながら、自宅でリハビリができるシステム「リハサク」により、退院後のリハビリをサポートし、より早い回復を目指します。

患者さん一人ひとりに合わせたリハビリメニューを動画で確認でき、自宅でも無理なくリハビリを続けることができます。また、リハビリスタッフが進捗を確認し、状況に合わせてプログラムを柔軟に調整できます。

「退院後、家に帰ったら何をすればいいのかわからない…」そんな悩みを解決し、リハビリを継続しやすい環境を整えています。

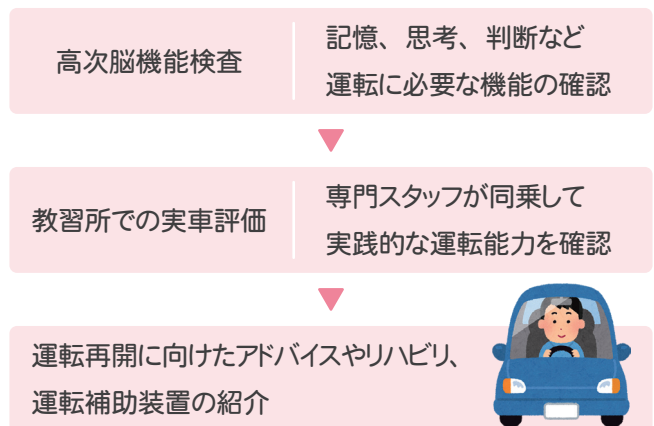


外来 運転の再開をサポート「運転外来」

「運転外来」では、運転の再開を希望する方のために、作業療法士が運転に必要な動作や判断力を評価し、実際に車で運転テストをおこないます。

「運転を再開したい」という思いを大切に、一人ひとりの状態に合わせたアドバイスをし、安心して運転再開できるように取り組んでいます。

運転外来の流れ



「リハサク」の主な特長

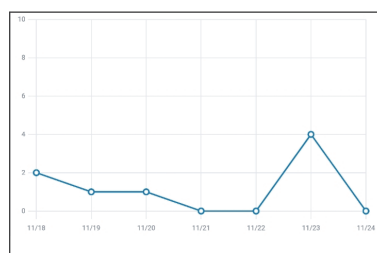
● リハビリ方法を動画で分かりやすく理解でき、習慣化できる

動画でリハビリの方法や注意点を、分かりやすく視聴できます。自宅でも正しいリハビリがおこなえるので、日々の自主トレーニングが習慣化しやすくなります。



● 痛みに合わせてリハビリ方法を調整できる

リハビリ中の痛みの程度を「0～10」で入力できます。そのデータをスタッフが確認し、痛みが強くないように、一人ひとりにあったリハビリ方法を調整します。



お気軽にご相談ください

当院では、患者さんが安心して自宅で生活できるように、さまざまな形でサポートを続けています。

「退院後、お風呂に入れるか不安」「自宅でどんなリハビリをしたらいいか知りたい」など日常生活に対する不安があれば、お気軽にご相談ください。

リハビリをもっと身近に

当院リハビリテーション課のInstagramで、実際のリハビリの雰囲気や、スタッフの日々の小さな頑張りを、写真や動画で配信中です。

二次元コードからアクセスして是非ご覧ください。

@kyokuto_riha





訪問看護リハビリステーション たんぽぽ
看護師

やなぎもと いくみ

柳本 育実

利用者さんの自宅に赴き、看護をおこなっているスタッフに、訪問看護について取材しました。

Q 訪問看護の業務とは

A 利用者さんご家族が安心して自宅で生活できるよう、さまざまなサポートをおこなっています。具体的には、体調チェックや入浴・洗髪・排泄などのケア、薬や栄養チューブの管理、人工呼吸器や酸素の管理などです。また、リハビリ専門スタッフの指導のもと、リハビリのサポートや緊急時の対応など、幅広い業務を担当しています。

Q 当施設ならではの特色

A 精神疾患の利用者さんに対応できることです。また同じ財団である岡山ハッピーライフ操風の定期巡回もおこなっています。岡山旭東病院、岡山リハビリテーション病院と連携し、それぞれの専門分野を活かすことができます。電子カルテの情報を共有して、ケアの方針を多角的に話し合うことができるため、より利用者さんへ質の高いケアの提供ができます。



Q 職場の雰囲気について

A チームワークがとても良いです。管理者をはじめ、スタッフ全員が明るく、定期的にカンファレンスを開催しているので、相談しやすくとても働きやすい職場です。以前は別の職場で働いていましたが、当施設の管理者の人柄と職場の雰囲気の良さに惹かれ、転職してきました。

Q 今後の目標について

A 今後は、他のスタッフが受けている精神疾患に関する研修を受講し、精神疾患のある方への対応にも積極的に取り組みたいと考えています。そして、これまで以上に利用者さんと信頼関係を築き、安心して自宅で過ごせるよう、必要な看護を提供し続けたいです。

なかまち一ず地域住民との意見交換会

2月8日(土)「いつまでも自分らしく過ごせる中区のまちづくり」をテーマに、地域住民と専門職との意見交換会が開催されました。岡山市中区の各町内会長や民生委員、医療機関、介護・福祉施設、地域包括支援センター、社会福祉協議会、消防署、学校などから総勢80名が参加し、地域の関心の高さが認識されました。住み慣れた地域で、安心して暮らし続けるための課題や解決策について多くの意見があがりました。



「近助」の力 地域で支え合う仕組みづくり

参加者からは「つながり」や「顔の見える関係性」の大切さへの意見が多く、「自助・互助・共助・公助」と並んで、「近助」という言葉とともに、身近な人同士が助け合い、支え合っていくことの大切さもあげられ、「なかまち一ずで地域課題を共有し、地域と行政とが共に協力できたら心強い」という意見もありました。参加者同士で交流し、新たなつながりが生まれたことも大きな成果のひとつとなりました。



※ なかまち一ずは、岡山市中区地域保健医療福祉連携活動として発足した中区の仲間で、とけこみ、まき込みながら安心できるまちづくりを目指しています。

知っ得情報

ACP 大切な人と考える、これからの生き方

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)とは、自分が大切にすることや望む医療・介護について考え、その専門職や家族、信頼している人たちと話し合い、書き留めて共有することです。前もって「どんな生き方をしたいか」「大切な人にどう生きてほしいか」を考え、人生観や価値観を繰り返し話し合うことが大切です。自分らしい選択のために、今できる準備を始めませんか?

※ ACPは、すべての人が必ずしも

おこなわなければならないものではありません。

おこなうメリットは?

- 将来に備えることで、「今」を安心して過ごせる
- 自分が望んでいない医療を、極力避けれる
- 家族もサポートしやすくなり、負担も軽減する
- 医療・介護従事者なども想いを尊重しやすく、治療や介護が円滑におこなえる

岡山市のサイトで
ACP「人生会議 実践BOOK」をダウンロードできます





「えん下」「誤えん」知っていますか？

えん下

口に入れた食べ物を嚙んでのどの奥に送り、
ごっくんと飲み込んで食道へと送り込むこと

誤えん

「えん下」がうまくできなくなり、食べ物が気
管に誤って入ってしまうこと

加齢、脳梗塞や脳出血の後遺症、パーキンソン病な
どの変性疾患などで飲み込む力が低下すると「誤え
ん」が起こりやすくなります。

えん下機能のセルフチェック

- ☐ 飲食中にむせることがある
- ☐ 食事中や食後、または普段から
のどにゴロゴロと痰が絡む
- ☐ のどに食べ物が残る感じがする
- ☐ 硬い物が食べにくい
- ☐ 飲み込んだ後に食べ物や酸っぱい液が
のどに戻ることがある
- ☐ 下の飲み込みテストで、飲み込めた回数が2回以下



飲み込みテスト

口の中に何も入っていない状態で、
30秒間で何回唾液を飲み込めるか数えてください。
※のどぼとけがしっかりと上下しているのを確認しましょう。

3回以上:正常 2回以下:要注意

1つでもチェックがついた場合
食べ方に注意する必要があります

正しい食べ方のポイント

- **一口の量は少なめに入れる**
1回のごっくんで口の中に残ることなく飲み込める量が最適です。
- **よく噛む**
30回噛んで食べるようにしましょう。
- **飲み込む時は集中**
テレビを見ながらや会話しながらではなく、
飲み込むことに専念しましょう。
- **飲み込んでから次の一口を入れる**
早食いは窒息のリスクです。
口の中の物がなくなってから、次の一口をいれるようにしましょう。
- **食後すぐに横にならない**
逆流性食道炎など逆流がある人は30分は座っておきましょう。



飲み込む力のトレーニング

おでこ体操

- ① 椅子に座って姿勢を正します。
- ② おでこに手の付け根を押し当て、
手とおでこを押し合います。
- ③ のどの周りに力が入るように5秒間キープします。



へそを覗き込むように、おでこは下方向へ力を入れる

口の体操

- ① 口を大きく開けて、舌を唇に沿って回します。
- ② 「パパパパ」「タタタタ」「カカカカ」「ララララ」
「パタカ・パタカ・パタカ」と大きな声で言います。

それぞれ1日10回おこないましょう

言語聴覚士による訪問リハビリを開始しました

セルフチェックやトレーニングを実践しても不安が
残る場合は、言語聴覚士がご自宅を訪問して専門
的なケアを提供いたします。
お気軽にご相談ください！



公益財団法人 操風会
訪問看護リハビリステーション たんぽぽ

〒703-8265 岡山市中区倉田 567-1 (岡山旭東病院内)

営業時間

月曜日～土曜日 9:00～17:30

※日・祝日・年末年始(12/29～1/3)は休業

TEL・FAX 086-276-6051





鈴木内科医院

鈴木 二郎 院長

施設の特徴

当院は平成元年に開業し平成17年に現在の中区門田屋敷3丁目へ移転しました。地域に根差した医療を心がけており、内科一般疾患に対する診療に加え、在宅往診・在宅での看取りなどにもできる限り対応させて頂いています。また甲状腺・内分泌代謝疾患が専門で甲状腺機能異常疾患の治療や甲状腺結節の穿刺吸引細胞診検査を含めたフォローを行っています。甲状腺疾患は比較的若年者に好発し初めての慢性疾患となる方が多く、疾患や治療方針について丁寧な説明を行い、できるだけ治療中断がないように心掛けて診療を行っています。



メッセージ

他の医療機関や在宅介護サービスなどの多職種と密な連携をとりながら患者さん・ご家族に寄り添った医療の提供を心がけています。お困りのことがありましたらお気軽にお声がけください。



診療科目 一般内科・甲状腺疾患・肺疾患
成人病検診・一般検診

診療時間 午前 9:00～12:00
午後 15:00～18:00

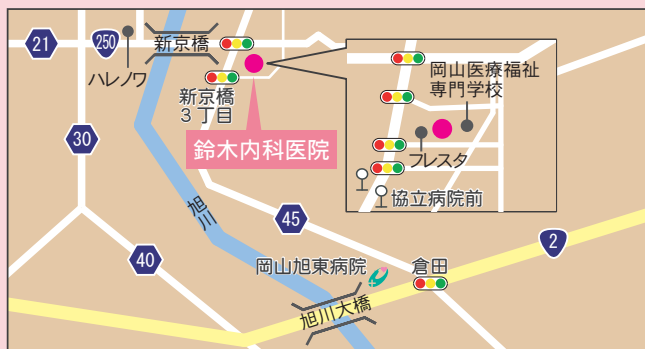
	月	火	水	木	金	土
午前	○	○	○	△	○	○ 13時まで
午後	○	○	○	△	○	△

休 診 木曜 / 土曜午後 / 日曜 / 祝日

〒703-8275 岡山市中区門田屋敷3-5-40-1

☎ 086-273-0101 Fax: 086-271-0200

<https://www.suzuki-naika-clinic.jp/>



◆公共交通機関をご利用の場合

バス停「協立病院前」を下車 徒歩5分
駐車場 病院前 5台
隣のフレスタ駐車場も利用可能

クラウドファンディングのご支援でMRIを更新しました

2023年に実施した「MRI更新のためのクラウドファンディング」を通じて、多くの皆さまから温かいご支援をいただけたことにより、2025年3月に最新鋭のMRIへ更新することができました。感謝の気持ちを込めて、掲載許可をいただいた方々のお名前を記した「寄付者芳名板」を画像センター受付横に設置いたしました。改めまして、ご支援いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。



「サイバー攻撃」への対応訓練を実施

近年、サイバー攻撃は増加しており、その脅威は医療機関においても例外ではありません。当院では、2月20日にサイバー攻撃により電子カルテシステムが使用できなくなった場合を想定した、事業継続計画(BCP)対応訓練をおこないました。訓練では、対応の手順や問題点などを確認しながら、連絡体制や患者対応などに対する確認・検討をおこないました。今後も継続して共育・トレーニングを実施し、セキュリティ意識の向上に努めてまいります。



脳神経外科、整形外科、脳神経内科、リハビリテーション科、内科、循環器内科、麻酔科、放射線科、リウマチ科、形成外科、泌尿器科、皮膚科、救急科、健康センター、脳卒中センター、サイバーナイフセンター、PET・RIセンター、スポーツ・関節外科センター

〒703-8265 岡山県岡山市中区倉田 567-1
Tel. 086-276-3231 Fax. 086-274-1028
<https://www.kyokuto.or.jp>



4～6月 催しのご案内

参加無料 健康教室のご参加は、事前に申込みをお願いします。

- 4/10(木) 13:00～14:00 糖尿病教室
- 15(火) 14:00～15:00 第140回転倒予防健康教室
「尿がもれる、尿が出ない」
講師：泌尿器科 入江 伸
- 24(木) 13:00～14:00 糖尿病教室
- 5/8(木) 13:00～14:00 糖尿病教室
- 22(木) 13:00～14:00 糖尿病教室
- 6/12(木) 13:00～14:00 糖尿病教室
- 14(土) 14:00～16:00 第71回園芸教室
☆材料費1,000円
- 23(月) 11:00～11:45 ヴォイセズURA コンサート
- 26(木) 13:00～14:00 糖尿病教室

感染症の流行状況により、急遽中止になる可能性もございます。
参加される際は事前にホームページをご確認のうえ、お越しください。

申込み

☎ 086-276-3231(代表)
オンラインでの申込み・最新の催し情報 ▶



病院統計 (2024年1月～12月)

外来患者延数	68,869人	地域医療支援病院紹介率	71.6%
入院患者延数	66,060人	地域医療支援病院逆紹介率	113.9%
新入院患者数	4,537人	救急患者搬入件数	2,010件
退院患者数	4,499人	脳神経外科手術件数	206件
平均在院日数	13.2日	整形外科手術件数	2,436件

診療時間 午前 9:00～12:00 (8:30受付開始)
午後 14:30～16:00

	月	火	水	木	金	土
午前	○	○	○	○	○	○
午後	○	○	○	△	○	△

休診 木曜午後 / 土曜午後 / 日曜 / 祝日
(但し、急患はこの限りではありません)

あとがき

病気や外傷により体の自由が利かなくなると少しでも元の生活ができるようにリハビリ・訓練が必要になります。しかも、続けることが重要です。継続は力なり。

院長 吉岡純二